

2. 漢字はかなよりも易しい

一年生にはここから教える

遠 足

歩け、

歩け、

元気に 歩け。

これが、石井学級の一年生が、入学して一番初めに学んだ文章です。もちろん、教科書は、

えんそく

あるけ、

あるけ、

げんきに あるけ。

となっています。そこで、この上に貼紙をしてかなを隠し、漢字を貼付けさせたのです。

「ひらがなも読めないうちに、こんな難しい漢字を教えるなんて、ずいぶん無茶な話だ」

こんな声が、私の耳には聞えてくるような気がします。

しかし、これは、無茶でも乱暴でもありません。漢字のほうが、かなよりも易しいからなのです。「あるけ、あるけ」よりも、「歩け、歩け」のほうが、一年生の子供には覚えやすく、読みやすいのです。これは、私がそう思うというわけではありません。一年生の子供たちが皆そう言っているものであり、だから、石井学級の一年生は、初めから、言葉を漢字で学んでいるのです。

石井式は漢字教育の地動説

昔、望遠鏡を発明したガリレオは、地球が太陽の周囲を回っていることを確かめ、地動説を主張

しましたが、当時の人々はだれもこれを信じようとはしませんでした。望遠鏡により天体の運動を観察すれば、だれだって地動説の正しいことが解るでしょうが、当時は、地球が動くなどということは、夢にも考えられないことだったので、こんなことは確かめてみようとする人がありませんでした。だから、一旦、地動説は立ち消えとなってしまいました。

「漢字は難しい」——これは、当時の国語教育界における天動説

だったと私は思っています。私たちは感覚に頼る限り、大地はじっとしており、太陽が動いている、としか考えられません。かなは易しく、漢字は難しい、というのは、やはり感覚にだけ頼った感じ方です。しかも、科学的に実証しない限り、私たちがこの考えから抜け出すことは、なかなか出来ないもののように思われます。

私は最初、五年間に亘ってこれを科学的に調べてみました。「歩け、歩け」式の学習を三年間、「あるけ、あるけ」式の学習を二年間やってみて、それぞれの学習が、子供たちにとって、どんなに難しいか、また易しいかを、比べてみたのです。すると、この二つのやり方の間には、実に大変な違いがあることが判りました。

「歩け、歩け」式の学習のほうが、比べものにならないくらい易しく学習でき、その上、算数や社会科、理科の学習までが、能率的にぐんぐんとはかどっていったのです。

石井方式は、言わば地動説です。科学的な方法によって発見され、正しいことが証明された方式です。しかし、人々が、感覚にだけ頼って物事を判断する限り、地動説が正しいものとはとても思えないように、石井方式の正しいことは、なかなか人々に判ってもらうことは難しいよ

うに思われました。

しかし、「あるけ」式と、「歩け」式と、この二つのやり方を実際にやってみれば、だれでも、はっきりと、石井方式の正しいことが判ります。初めて石井方式を採用した先生方からの便りによれば、

「石井先生が、いかに、『漢字は易しい』と言っているとはいえ、これほどまでに易しいものだとは思わなかった」と、一人の例外もなしに語っていらっしゃいます。

ㇿ ㇻ ㇼ

部首 商

啻の変形で“ただ一つ”。帝(皇帝)はただ一人しかいないから。部首としては同音の的(まと)の意味にも使われる。

【適】 的の意味の商と辵の会意形声字で、目標に向かって進む意味。“行く”と“目的地に行き着く”の意味。目的を果たすことから転じて“うまくいく”。

【敵】 的の意味の商と攴との会意形声字。目標とする相手に向かって武器を取ること。“目指す相手”“戦いの相手”。自分と対等に戦える“良い相手”の意味。

故岡潔博士も認めた科学性

私は、ある会に招かれて、石井方式の原理と、それを発見するまでの調査研究の発表をしたこと

があります。その時、思いがけなくも、今は故人となられた世界的に有名な数学者で、文化勲章を受けられた岡潔博士が、私の話を聞いてくださっていたのです。発表が済んでから、私は、博士に、石井方式の批判をお願いいたしました。すると博士は、

「研究調査の方法が、大変に科学的で、従って、その結論は信頼してよい、と私は思います。今後も、大いにその調子でおやりなさい」と言われ、今後の研究方向や研究上の注意などについて、いろいろ教えてくださいました。

また、博士は、あらゆる学問を進めていくための基礎としての言葉の教育に、大変関心を持っていらっしゃって、

「小学校で、いたずらに計算技術を養う数学教育を行うなら、それより、その時間を、言葉の教育に当たほうが数学のためにもなる」という意味のことを、おっしゃいました。